

●平成26年12月議会報告

人・モノ・技術を愛知から世界へ発信

国際大会招致へ国内最大級の展示会場建設を

愛知県議会12月定例会は、衆議院総選挙と重なる12月2日に開会し、県は人事委員会の勧告に基づく職員給与の引き上げに伴う人件費の増額分79億円など総額113億707万円の補正予算案を含む41議案を提出し、

いずれも可決・承認し19日に閉会しました。

議会の中で大村知事は、FIFAフットサルワールドカップ2020と、ラグビーワールドカップ2019について、愛知開催への招致が正式に動き出し



▶大活躍の愛知県選手団の皆さん

技能五輪

愛知県選手団10年連続最優秀技能選手団賞

技能五輪大会は、特定の技能を身につけた満23歳以下の若手技能者による技能レベルの日本一を競う大会です。また、全国アビリンピックは、満15歳以上の障害のある方々による技能競技大会です。今回の「あいち大会」には、技能五輪全国大会に41職種1,200名（内、愛知県選手は34職種229名）が県内の8会場で、アビリンピック大会は24種目339名（内、愛知県選手は21種目21名）が名古屋国際展示場で熱戦を繰り広げ、愛知県選手団の皆さんは、技能五輪大会で10年連続の最優秀技能選手団賞を受賞するなど、鍛えられた自らのスキルを遺憾なく発揮されました。

たことが報告されました。また、昨年11月下旬から県内各地の会場で行われた技能五輪全国大会では、愛知県選手団が12の競技種目で金賞を受賞し団体10連覇を果たし、同時開催された全国障害者技能大会（全国アビリンピック）でも、県選手団の入賞者数は17競技種目17人と全国最多となる好成績であったことや、両大会を合わせた来場者数が28

万9千人と、過去最多を記録したことが報告されました。知事は今回の成功を基礎に、2021年から2023年の国際技能五輪・国際アビリンピック大会の愛知県への誘致に乗り出す考えを表明し、会場として国内最大となる屋内10万平方メートルの展示場建設を目指し、来年度予算に調査費を計上する考えを明らかにしました。

産業労働委員会一般質問

基金活用で着実な正規雇用・雇用定着の展開を

愛知労働局が公表している10月分の雇用情勢では、有効求人倍率が1・5倍と前年同月比で僅かな伸びを示しているものの、正社員新規求人数は逆に1・8%減と、依然として厳しい雇用情勢が続いています。

れる「地域人づくり事業」の事業展開について質しました。この事業は、新たな雇用や非正規からの正社員化、賃金上昇などの処遇改善による定着支援に取り組む企業を支援し雇用拡大に繋げる事業です。

愛知県では、国からの事業費を活用して緊急雇用創出基金事業を展開していますが、起業10年以内の起業に対する「起業支援型地域雇用創出事業」では、市町村分として計上した平成26年度予算の1割弱しか事業展開が出来ず、約9割を国へ返還することとなりました。このため、同基金を活用して来年度も行わ

産業労働部は「地域人づくり事業」の展開について、起業支援型事業は起業10年以内の起業が対象等の制約もあり、市町村が独自で事業を展開することが難しい側面もあったことから、平成27年度の地域人づくり事業については、県事業として各部署連携し、雇用拡大に繋がる事業展開を行う考えを示しました。